



しまくとぅば塾
ちむぐる

しまくとぅば塾 ちむぐる

<https://www.okinawa.bunkaju.jp/>

E-MAIL : support@bunkaju.jp

TEL : 050-8880-2387

しまくとぅば塾 ちむぐる

検索

運営：一般社団法人文華樹

<https://bunkaju.jp/>



*Shimakutuba Juku
Timmuguru*

04

民謡コース 第4回

《谷茶前節》

Tanchamee-Bushi



しまくとぅば塾

ちむぐる

歌詞分析 1

谷茶前の浜に するる小が 寄ててんどー ヘイ

Tanchamee nu Hama ni Sururugwaa ga Yutitindoo Hei

ナンチャマシマシ ディ アングワー ソイソイ ディ アングワー ソイソイ

Nancha mashimashi di ?Angwaa soisoi di ?Angwaa soisoi

【意味】 谷茶の村の前の浜にキビナゴが押し寄せたってよ。

「谷茶前の浜」ってどこ？

- ・国頭郡恩納村谷茶

ぞうどうい 雑踊「谷茶前」

- ・「谷茶前節」と「伊計離節（いちはなりぶし）」の二曲セット
- ・振付は 1887 年頃に「玉城盛重（たまぐすいく せーじゅー）」作舞
- ・1726 年頃、国王が万座毛に立ち寄り、その時の慰労の出し物として谷茶地区の青年たちが披露したものが「谷茶前節」だったという。

雑踊り (Zooudui)

- ・古典以外の踊り、という意味合い。
「雑：はっきりとした部類のどれにもはいらないものをまとめた部類」。
- ・廃藩後、それまで古典舞踊では無かった「民衆の生活」をテーマにして作られた物。
- ・明治期の作品だが、現在では準古典扱いされている演目も多い。

1番の歌詞分析「谷茶前の浜に するる小が 寄ててんどー」

- ▶ 前 Mee：1. 前。また、側・近くの意。2. 以前。
- ▶ の nu：属格の助詞「の」。
- ▶ 浜 Hama：浜。沖縄語語彙。
- ▶ に ni：場所の格助詞。口語では「んかい Nkai」を用いる。
- ▶ するる Sururu：ニシン目キビナゴ科。
- ▶ ぐわー gwaa：指小辞。東日本方言の「〜こ」に相当する。
- ▶ が ga：主格助詞「が」。普通非人名・非人代名詞には「ぬ nu」を用いるが「が」の例も多くある。
- ▶ ゆゆん yuyun：1. 近づく。2. 集まる。3. (年が) 寄る。
- ▶ てん tin：伝聞に基づくことを人に伝える時に使う。動詞テ形に接続した場合、過去の出来事を伝える。〜したようだ。〜したとき。
- ▶ どー doo：語尾。日本語の強調終助詞「〜よ」に相当。

囃子(フェーシ) Heesi

※歌詞としての意味は持たない音楽的なスキット部分

- ▶ ヘイ Hei：人を呼ぶときのぞんざいな語。おい。ねえ。
- ▶ ナンチャ Nancha：不明。「なーんちゃ(もう本当に)」か。
- ▶ マシマシ Mashimashi：不明。畳語化してオノマトペ風になっている。「まし(より良い)」から「良い良い」程度の意味か。
- ▶ ンディ ndi：引用の助詞「と/って」。
- ▶ ?アングワー ?Angwaa：平民の姉ちゃん。また、平民の若い娘。
土族については「御姉」。百姓語では「?あばぐわー」と言う。
- ▶ ソイソイ Soisoi：神歌でも用いられるオノマトペ。「それぞれ」程度の意味か。

歌詞分析 2

するる小や在らん みじゅん小どやんてんどー ヘイ

Sururugwaa ya ?Aran Mizyungwaa du yantindoo Hei

ナンチャマシマシ ディ アングワー ソイソイ ディ アングワソイソイ

Nancha mashimashi di ?Angwaa soisoi di ?Angwaa soisoi

【意味】 キビナゴではない。ニシン科の小魚だってよ！

2番歌詞分析「するる小や在らん みじゅん小どやんてんどー」

- ▶ ~や あらん ya ?Aran：~ではない。「やん」の否定形。
- ▶ みじゅん Mijun：ニシン科の小魚。
- ▶ ど du：強調の係助詞。
- ▶ やん yan：~だ。不規則活用語。
- ▶ てん tin：伝聞に基づくことを人に伝える時に使う。終止形に接続した場合、現在/一般の出来事を伝える。~するようだ。~とき。

指小辞「小(ぐわー)」とは

- ・なんにでもつく。小さいこと、少ないこと、可愛いことを表す。本来尊敬すべきものにつく場合は小ばかにした表現になる。家の名前につく場合は分家を表す。

【例】 犬小 (?In-gwaa) : わんちゃん
巡査小 (Junsaa-gwaa) : ポリ公
うっぴ小 (?Uppi-gwaa) : それっぽっち
小せー (Gwaa-see) : まねっこ
あちこーこー小 (?Achikookoo-gwaa) : できたてほやほやの小料理
かなさ小すん (Kanasa-gwaa-sun) : ちょっと可愛がる

歌詞分析 3

兄達や 其れ取りが 姉小や かめて 其れ売りが ヘイ

?Ahwiitaa ya ?Uri Tui ga ?Angwaa ya Kamiti ?Uri ?Ui ga Hei
ナンチャマシマシ ディ アングワー ソイソイ ディ アングワーソイソイ
Nancha mashimashi di ?Angwaa soisoi di ?Angwaa soisoi

【意味】 お兄さん達はそれを取りに（行く）。

お姉さんは頭に載せてそれを売りに（行く）。

3番歌詞分析「兄達や 其れ取りが 姉小や かめて 其れ売りが」

- ▶ あふいー ?Ahwii: 平民のお兄さん（非家族にも）。土族語。百姓語では「あっぴー ?Appii」。また、土族のお兄さんのことは土族語で「やっちー yacchii」と言う。
- ▶ たー taa: たち。複数を表す接尾辞。
- ▶ 其れ ?Uri: それ。代名詞。日本語と若干感覚が違う。
- ▶ が ga: 目的を表す格助詞「に」。主格の「が」ではないので注意。
- ▶ かみゆん Kamiyun: 1. 頭に物を載せる。2. 頂く。年長者から物を貰う。
- ▶ うゆん ?Uyun: 売る。

歌詞分析 4

其れ売ての 後の 姉小が 匂いのしゅらさ ヘイ

?Uri ?Uti nu ?Atu nu ?Angwaa ga Niwi nu Shurasha Hei
ナンチャマシマシ ディ アングワー ソイソイ ディ アングワーソイソイ
Nancha mashimashi di ?Angwaa soisoi di ?Angwaa soisoi

【意味】 それ（魚）を売ってののちのお姉さんの匂いの愛らしいことよ。

4番歌詞分析「其れ売ての 後の 姉小が 匂いのしゅらさ」

- ▶ 其れ ?Uri: それ。ここでは魚のこと。
- ▶ 後 ?Atu: 1. のち。将来。2. 次。3. 子孫。※「後方」の意味では普通「くし kusi」を用いる。「形跡」の意味では「しるし sirusi」を用いる。
- ▶ が ga: ここでは日本語の属格の助詞「の」に相当。主に人称や代名詞の場合属格として用いる場合がある。「ぬ」よりも親しみを表す。
- ▶ 匂い Niwi: におい。悪臭にも芳香にもいう。
- ▶ しゅらさん: 「しゅーらーさん」とも。かわいらしい、愛らしい。中古日本語の「しほらしさあり」と同根とされる。

歌詞分析 5

其れ 売ゆる島や 謝名と宇地泊 ヘイ

?Uri ?Uyuru Shima ya Jana tu ?Uchidumai Hei
ナンチャマシマシ ディ アングワー ソイソイ ディ アングワーソイソイ
Nancha mashimashi di ?Angwaa soisoi di ?Angwaa soisoi

【意味】 それ（魚）を売る村は大謝名と宇地泊。

4番歌詞分析「其れ売ての 後の 姉小が 匂いのしゅらさ」

- ▶ 島 shima: 1. 集落。村。2. 離島。特に文脈が無い限り普通「集落」の意味で用いる。
- ▶ 謝名（現・大謝名）Jana: 謝名はとりわけ大きい集落だったらしい。沖縄では隣接する2～3の集落や地域をセットで呼ぶ習慣がある。若狭松尾村（現・若狭 & 松山）など

日本語と混乱する単語

- ▶ しま shima: 集落。また、離島。
- ▶ まち machi: 市場。なお「お店」は「まちや machiya」。
- ▶ やま yama: 森。森林。
- ▶ もり mui: 山。丘。険しい山岳は「たけ Taki」。
- ▶ かわ kaa: 井戸。「川」は「かわら kaara」。
- ▶ ひさ Hwisa: 足。「膝」と同根とされる。

歌詞（1番～5番）

1) 谷茶前の浜に するる小が 寄ててんどー ヘイ

Tanchamee nu Hama ni Sururugwaa ga Yutitindoo Hei

※ナンチャマシマシ ディ アングワー ソイソイ ディ アングワーソイソイ
Nancha mashimashi di ?Angwaa soisoi di ?Angwaa soisoi

2) するる小や在らん みじゅん小どやんでんどー ヘイ

Sururugwaa ya ?Aran Mizyungwaa du yantindoo Hei

3) 兄達や 其れ取りが 姉小や かめて 其れ売りが ヘイ

?Ahwiitaa ya ?Uri Tui ga ?Angwaa ya Kamiti ?Uri ?Ui ga Hei

4) 其れ売ての 後の 姉小が 匂いのしゅらさ ヘイ

?Uri ?Uti nu ?Atu nu ?Angwaa ga Niwi nu Shurasha Hei

5) 其れ 売ゆる島や 謝名と宇地泊 ヘイ

?Uri ?Uyuru Shima ya Jana tu ?Uchidumai Hei

琉歌と単語

この歌詞は《浦波節（＝物知り節）》や《果報節》でも用いられるので、作詞は普久原朝喜氏か？

「思事」という地域もある。
「今日ぬ 栄い」 ver. もある。

・人：文語。口語では「人」。口語の「っ」は、「ふいとう Hwitu」の母音「i」の名残。
・後：先。この後。未来について用いる語で、「うしろ、形跡」の意味はない。「うしろ」は「後」と言う。

・思事：思う事。ふだん思っていること。

・千代：千の世代に及ぶほど長い期間のこと。千代とも。

・栄い：繁栄のこと。「栄い」とも言う。

歌詞分析 6

為せば何事も 成よる事やすが

Nashiba Nanigutu n Nayuru Kutu Yasiga

為さぬ故からど 成らぬ定め

Nasan Yui kara du Naran Sadami

【意味】為せば何事も成るけれど

何もしないからこそ何にもならない決まりだ

単語

- ・為すん：1.（ある状態に）する。2. 寄せる。
- ・成ゆん：1.（ある状態に）成る。2. 出来る。なしうる。3. 寄る。
- ・成らん：1. できない。うまく行かない。2. ダメだ。不許可だ。
- ・故：ゆえ。所為。
- ・定め：決まりごと。ルール。

琉歌

「成らんさらみ」 ver. もある。この場合「何にもならないであろうぞ」の意。

この琉歌の元ネタは「なせば成る なさねば成らぬ 何事も 成らぬは人の なさぬなりけり（作詩：上杉鷹山 1751-1822)」。さらにこの和歌の元ネタは「なせば成る なさねば成らぬ 成る業を 成らぬと捨つる 人のはかなさ（作詩：武田信玄 ※伝説)」。有名な和歌を琉歌に改作（＝本歌取り）したもので、改作は他にも多く事例がある。

歌詞 5 と同じく《浦波節（＝物知り節）》や《果報節》でも使われる歌詞なので、編詞は普久原朝喜氏か？

和歌を琉歌に改作した例（本歌取り）

①常盤なる 松の緑も 春くれば いまひとしおの 色勝りけり

（古今和歌集 源宗千朝臣）

↓
《特牛節 Kuti-Bushi》

常盤なる松ぬ 変わる事無さみ
何時ん春来りば 色どう勝る

②月やあらぬ 春や昔の 春ならぬ 我身ひとつは もとの身にして

（古今和歌集 在原業平）

↓
《仲風節 Nakahuu-Bushi》 7 5 8 6 音の「仲風形式」の琉歌

月や昔ぬ 月やすいが
変わてい行く物や 人ぬ心

《ていんさぐぬ花》の発祥について

- ・沖縄本島（特に中部）各地で伝承されてきたといわれるが、1980 年代わらべうた調査によると大正生まれのおばあ様方でも《ていんさぐぬ花》が伝承されていなかった地域もいくつかある（沖縄市知花など）。
- ・年代がわかる最古の記録は 1959 年、城間ひろみ & 喜納昌永の《ちんさぐの花》レコード。普久原恒男の奥様。録音はマルフクレコード。
- ・1961 年金井喜久子の『沖縄民謡による合唱曲集 1』に《てんさぐの花》が収録。オーケストラアレンジや各国主要言語に翻訳された合唱曲。
- ・1966 年 NHK「みんなのうた」で沖縄民謡として杉並児童合唱団が歌った。NHK が初めて沖縄民謡を地上波放送した曲、ということもあって全県的・全国的に認知が広まった。
- ・メロディの構成から《赤田首里殿内》系統のわらべうたのバリエーションである可能性がある。《あかなー》《芋ぬ葉やんぶち》など。